2005年3月

「テーブル・オフィシャルズの任務」の変更点の概略

(財)日本バスケットボール協会
審判部
規則委員会／TO委員会

※「スコアラー」,「アシスタント・スコアラー」の名称が，それぞれ「スコアキーパー」,「アシスタント・スコアキーパー」に変更された.

1. スコアキーパー

(1)オルタネイティング・ポゼション・ルール

①第1ピリオド以外の，第2，第3，第4ピリオドと各延長時限の開始は，すべてオフィシャルズ・テーブルから遠いほうのセンター・ラインのアウト・オブ・バウンズからのオルタネイティング・ポゼション・ルールによるスロー・インを行うことになった.

※後半から攻めるバスケットが変わるので，**前半（第2ピリオド）が終了したときにすみやかにポゼション・アローの向きを変え，**第3ピリオドを始めるときにオルタネイティング・ポゼション・ルールによるスロー・インのボールが与えられるチームが攻撃する方向を正しく示しておけるようにする.

②第2，第3，第4ピリオドと各延長時限を始めるスロー・インのときに，ボールがスロー・インをするプレイヤーに与えられてからスロー・インされたボールがコート内のプレイヤーに触れるまでの間にファウルやヴァイオレイションが起こった場合は，そのファウルやヴァイオレイションはプレイのインタヴァル中ではなく競技時間中に起こったものとして処置することになった.

※**ファウル**が宣せられた場合は，**ポゼション・アローの向きは変えない.**
スロー・インをするチームに**ヴァイオレイション**が宣せられた場合には，オルタネイティング・ポゼション・ルールによるスロー・インは終わったことになるので，**ポゼション・アローの向きを変える.**

(2)交代／チャージド・タイム・アウト

①ヴァイオレイションのあとでも，どちらのチームにも交代が認められることになった.

※ヴァイオレイションが宣せられたときも，ファウルが宣せられたときと同様に，**どちらのチームから交代の申し出があっても交代が認められる時機が終わる前に合図器具を鳴らして交代を知らせる.**

※パーソナル・ファウルの罰則（チーム・ファウルの罰則も含む）によるフリースローの場合，最後のフリースローでフリースロー・シューター側のヴァイオレイションが宣せられたときも，どちらのチームにも何人でも交代が認められることになった（フリースロー・シューターも含む）. この場合は，フリースロー・シューターのヴァイオレイションが宣せられたあとで交代の申し出があっても，どちらのチームにも交代が認められる. ただし，最後のフリースローでフリースロー・シューターの相手チームにヴァイオレイションが宣せられてフリースローのやりなおしをする場合，あるいはテクニカル・ファウル，アンスポーツマンライク・ファウル，ディスクォリファイング・ファウルの罰則でフリースローのあとセンター・ラインからのスロー・インがある場合には，フリースローの「セット」が終わっていないので，ヴァイオレイションが宣せられてもどちらのチームにも交代は認められない（フリースロー・シューターの交代がある場合には，従来のとおりとする）.
チャージド・タイム・アウトの間は，どちらのチームにも交代が認められることに変わりはない.

②フリースローの場合，チャージド・タイム・アウトや交代が認められる時機が終わるのが，「1投目のフリースロー・シューターにボールが与えられたとき」に変更された．
また，最後のフリースローののちフリースロー・シューターの交代が認められたときには相手チームにも1人だけ交代が認められるが，その交代を申し出なければならない時機が「最後のフリースローのボールがフリースロー・シューターに与えられる前」までに変更された．

※スコアキーパーは，「1投目のフリースロー・シューターにボールが与えられた」あとは，交代やチャージド・タイム・アウトを知らせる**合図をしてはならない．**

③プレイのインタヴァル（ハーフ・タイムも含む）の間に交代するときも，交代要員はスコアキーパーに交代の申し出をしなければならないことになったが，**チャージド・タイム・アウト**やプレイの**インタヴァル**の間に交代の申し出があった場合は，スコアキーパーは，交代を知らせる**合図器具は鳴らさない**ことになった．

※この場合，**交代要員**はスコアキーパーに交代の申し出をしたときに**プレイヤーとなり**，**プレイヤー**は**交代要員となる**が，審判は交代の合図や交代要員を招く合図をしないし，交代要員がいったんコートに入る必要もなくなったので，スコアキーパーは，交代を申し出たプレイヤーの番号を覚えておく必要がある．

※また，チャージド・タイム・アウトの前に交代の申し出があり，そののちチャージド・タイム・アウトが認められた場合は，審判がチャージド・タイム・アウトを認めたときに交代要員はプレイヤーとなり，プレイヤーは交代要員となる．

④**スコアキーパーが目で見てはっきりと確認できる**場合（ヴィジュアル・コンタクトがとれる場合）は，コーチやアシスタント・コーチがチーム・ベンチ・エリアから合図をしてチャージド・タイム・アウトを請求してもよいことになった．

⑤どちらかのチームからチャージド・タイム・アウトが請求されていたときにファウルが宣せられた場合は，そのファウルの伝達が完全に終わってからでなければチャージド・タイム・アウトを知らせる合図をしてはならない．そのファウルがプレイヤーの5回目のファウルであったり，失格・退場となるファウルであった場合は，それらのプレイヤーの交代が終わってからでなければチャージド・タイム・アウトを知らせる合図をしてはならない．
どのような場合でも，これらの手続きがすべて終わり，審判が笛を鳴らして定められたチャージド・タイム・アウトの合図（審判の合図12.）を示したときから1分をはかり始めなければならない．

（3）アンスポーツマンライク・ファウル

①合図器具を鳴らして審判に知らせる時機に，「1プレイヤーに2回目のアンスポーツマンライク・ファウルが宣せられたとき」が追加された（スコアシート記入法参照）．

※「1プレイヤーに5回目のプレイヤー・ファウルが宣せられたとき」，「1プレイヤーに2回目のアンスポーツマンライク・ファウルが宣せられたとき」，「1チームのコーチの欄に“C”が2回記録されるか，“B”が3回記録されるか，“C”と“B”とが合わせて3回記録されたとき」は，合図器具を鳴らして審判に知らせなければならない．

(4)スコアシート記入法

①スコアシートを記入するペンの色が，第1ピリオドと第3ピリオドは**赤色**，第2ピリオドと第4ピリオド（延長時限を含む）は**黒色**に変更された．

※あらかじめスコアシートに記入しておくチーム・メンバーの氏名・番号，コーチやアシスタント・コーチの氏名，およびスコアシートの最上部に関すること，それぞれのサインは，すべて**黒色**で記入する．

※ゲームの最初に出場する5人のプレイヤーの×印は**黒色**で記入し，ゲームの開始時に囲む○印は**赤色**で記入する．

※ゲーム終了後にスコアシートをしめるときは，すべて**黒色**で記入する．

※新しい競技規則書に二色印刷で例示されているので，詳細は競技規則書を参照すること．

②「1プレイヤーに2回目のアンスポーツマンライク・ファウルが宣せられて失格・退場となったとき」，「1チームのコーチの欄に“C”が2回記録されて失格・退場となったとき」のスコアシートへの記入方法が変更された．

※プレイヤーに2回目のアンスポーツマンライク・ファウルが宣せられて失格・退場になったときは，残りのすべての枠に“D”を記入する．

U_2	P	U_2	D	D

※コーチに2回目の“C”が記録されて失格・退場となったときは，残りの枠に“D”を記入する．

コーチ	C_2	C_2	D
A・コーチ			

③第1，第2，第3ピリオドが終わったとき，ファウルの欄で**そのピリオドに記入したファウルの記号だけ**を太い線で囲むことになった（コーチ，アシスタント・コーチの欄も同様にする）．
この線は**それぞれのピリオドで使用した色で記入する．**

※新しい競技規則書に二色印刷で例示されているので，詳細は競技規則書を参照すること．

2. アシスタント・スコアキーパー

①チーム・ファウルの数が表示できる器具が用意されている場合は，チーム・ファウル数の標識を使用しなくてもよいことになった．
プレイヤー・ファウル数の標識は，かならず使用しなければならない．

3.　タイムキーパー

①タイムキーパーが合図器具を鳴らして時間の経過を知らせる時機に，「第1ピリオドおよび第3ピリオドの始まる3分前と1分30秒前」，「チャージド・タイム・アウトが終わったとき（チャージド・タイム・アウトをはかり始めてから60秒が経過したとき）」が追加された．

※タイムキーパーは，次のときに合図器具を鳴らして時間の経過を知らせる．

a. **第1ピリオド**と**第3ピリオド**の開始**3分前**
b. **第1ピリオド**と**第3ピリオド**の開始**1分30秒前**
c. **第2ピリオド，第4ピリオド，各延長時限**の開始**30秒前**
d. 各ピリオド，延長時限の**競技時間が終了した**とき
e. 審判がチャージド・タイム・アウトを宣してから**50秒が経過した**とき
f. 審判がチャージド・タイム・アウトを宣してから**60秒が経過した**とき
（チャージド・タイム・アウトが認められたときは，タイムキーパーが2回目（60秒）の合図をするまではゲームを再開しないことになった）

②ハーフ・タイム中，チームや審判が第3ピリオドが始まる3分前が近くなってもコートにもどってきていないときは，タイムキーパーは，もうすぐ3分前になることをそのチームや審判に知らせるための何らかの手段を講じなければならない（第49条 49.1-(4)）．
ただし，このためにタイムキーパーがオフィシャルズ・テーブルを離れたときには，3分前を知らせる合図器具を鳴らすのに間に合うようにもどってこなければならない（第49条 49.4-(2)）．

4.　24秒オペレイター

①**ジャンプ・ボール・シチュエイション**になったとき，それまでボールをコントロールしていたチームに引きつづきスロー・インのボールが与えられる場合も，**24秒の残り時間を継続してはかる**ことになった．

※24秒が継続されるケースが増えたので，24秒オペレイターは，審判の笛が鳴ったとき**24秒計をすぐにはリセットせずにまずストップし，**状況をよく判断してそのあとの操作を正しく行わなければならない．

②24秒の合図が鳴っても審判がその合図を無視してそのままゲームをつづけさせたときは，24秒オペレイターは，すみやかに24秒計をリセットし，どちらかのチームがボールをコントロールしているときはその時点から，どちらのチームもボールをコントロールしていないときは次にどちらかのチームがボールをコントロールした時点から，すみやかにあらたな24秒をはかり始めなければならない．

※審判が24秒の合図に気がつかなかったり，24秒が経過したのに24秒の合図が鳴らなかったり鳴らしそこなったりしたときは除く．